

輸入食品の安全性確保によせる 消費者の思い

食の安全部会での活動紹介

北九州市消費者団体連絡会
食の安全部会 山下 伸子

1

北九州市消費者団体連絡会とは

- 1974年に第一回北九州消費者大会を開催。
- 1979年に九州では鹿児島県、宮崎市に次いで3番目の消団連として誕生。
- この間、北九州市消団連では、電気、ガス、水道料金、交通機関の利用料金などの値上げ問題をはじめ、学校給食の問題、カネミ油症問題、さらに平和問題や税制問題にまで、消費者のくらしと健康にかかわるさまざまな分野で、取り組みを重ねてきました。



2

北九州市消団連加盟団体一覧

- エフコープ生活協同組合
- 北九州市生協労組懇談会
- 北九州市立大学生生活協同組合
- 北九州母親大会連絡会
- 北九州マスコミ文化共闘会議
- 九州工業大学生生活協同組合
- 健和会労働組合
- 自治労連北九州市職員労働組合
- 新日本婦人の会
- 徳力団地自治会



3

食の安全部会のはじまり

- 1999年「食の安全行政調査部会」を発足。
- 「食の安全」署名10万人キャンペーンの取り組み開始。
- 2001年3月に68,578筆の請願署名を北九州市に提出。その後、この活動は全国に広がって1,373万筆の署名を集め、2003年に食品衛生法改定と食品安全基本法制定となりました。
- その後、「食の安全部会」と名前を変え、継続的に活動することとしました。



4

食の安全への不安

- 2001年に国内初のBSE感染牛確認。その後、雪印食品(株)の牛肉偽装問題発覚。
- その後、他の企業でも牛肉偽装、隠ぺいが発覚し、消費者の不安はますます膨れ上がり、何を信じ、何を食べたらいいいのかわからない等の声も聞こえてきました。
- また、2007年にも、ミートホープ(株)、牛肉ミンチの品質表示偽装事件があり、2008年1月中国産冷凍ギョーザによる健康被害事件では、関係のない中国製品にまで不安が寄せられました。

5

「食の安全部会」の活動

2001年、国内初のBSE感染牛確認以降、BSEについて学習すると同時に全頭検査がどの様に行われているのか、北九州市立食肉センターへ見学に行きました。

2002年には、植物防疫所、福岡検疫所、門司検疫所の見学、2003年は農林水産消費技術センター見学も行いました。

その後も、消団連学習バスツアーとして、広く消費者に呼びかけ50人前後で工場の見学、HACCPの学習、食品表示、牛トレーサビリティの学習等を行ってきました。



6

「食の安全部会」の活動

また、学習だけでなく、消費者に分かりやすく伝えるために寸劇や、講演会をしました。
最近では、食育講演会、学校給食の調理員さんと一緒に親子料理教室も開催しています。



7

食の安全を求める消費者

- 食品事故が起こると消費者は不安になる。
- 学習をして頭で理解しても、なかなか安心しないが、自分の目で確認すると安心する。
- 輸入食品は作っている現場が見えないので少し不安である。しかし、輸入するときに検査をしているので安全だろうと思っている。
- BSE感染牛については、10年確認されていないし、危険部位を取り除いているので大丈夫ではないか。
- しかし、「食品安全委員会」のリスク評価では、国産牛の検査対象月齢について、20か月齢と30か月齢のリスクの差は「あったとしても非常に小さく、人への健康影響は無視できる」とありました。(どこかで聞いたセリフ)

8

食の安全を求める消費者

- 一定の理解はできるとしても、なぜ30か月齢なの？
- 25ヶ月齢ではいけないの？
- また、特定危険部位の範囲は見直して大丈夫なの？
- いくら飼料規制をして大丈夫、リスクは少ないと言われても心配。他の国には日本みたいなトレーサビリティはあるの？
- 今後、TPPに参加することが決まった場合、食の安全は守られるのか本当に心配。
- 消費者の不安、心配を取り除くためにも、たくさんのリスクコミュニケーションと情報発信をする必要があると思います。